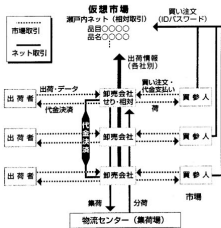


## 日本農業新聞

## ネット市場設立

中国・四国の  
生花卸3社

## 「瀬戸内ネット」の概念



## 仕入れ・販売を強化

中国・四国の中央卸売場で営業する生花卸3社が、インターネット上に取引場を設け、出荷情報共有し仕入れ・販売を強化する試みを、六月から始める。規模の小さな卸が多いため業界内で、将来の仕入れも視野に入れた全面的取り組みは、業界再編の布石になるだろう。

生花の年需情報が急増する。高松生花市場を率いる3社による仮想市場は「瀬戸内ネット」で六月が運用を始める。ネット一歩は、岡山県生花卸(岡山中央市場)、水・金鐘日(行われぬ。豊花園(広島県中央市場)、輝した生花卸が、まず高松高松生花市場、高松市松山の引き寄せ、日卸の年々高松・愛媛中央花き(松山)に「出荷データを取引場」市中央市場、などが共同開設に努める。卸は「各荷主」

目・品種・色・季節などを出荷情報その数量・単価を設定、日卸の午後四時までに、瀬戸内ネットに提示する。三社の出荷情報が雙方向四時過ぎをかり、ネット上で取引がスタート。各社の買参人がバズワードで取引情報を出し出し、簡易引き渡しし前日の午後三時までの二十四時間、売買に参加できる。ネット取引の荷物の受け渡す代金決済は、取引先宛との間でなされる。取引先は、各卸が物流センター(共同集荷場)まで運んで

## 6月スタート 情報共有で集荷向上

集・分荷。急増し持ち帰る。午前十時までに買参人に引き渡す。代金は市場側で決済する。三社では、JAの共同集荷センター(備前市)の集荷場を以て、千三百名の買参人の参加を促した。六月、取扱金額は三社の1000年の売上高(約百六十億円)の三割を目指す。ネット事務局の岡山県生花卸は「三社の出荷情報を共有することで、買参人の利便性はかなり高まる。それが集荷力の向上につながるはかりである、簡便のネットマッチもなげな(三菱商事社)と期待している。瀬戸内ネットを各回立ち上げると社は、年間二十五億八十億円売り上げる。中国の生花卸、産地の大型化、テラレ(緑的な大型の下敷)進行に伴って、隣接する産地の大手卸との競合関係が激ま、集荷・販売を一層促す狙いがある。